研究タイトル：

英文学，英詩，十七世紀のイギリス



氏名：	菅野　智城 ／ KANNO Tomoshiro	E-mail：	tomoshi@tsuruoka-nct.ac.jp
職名：	准教授	学位：	修士（文学）

所属学会・協会：	日本ミルトン協会，英米文化学会，日本英語文化学会，十七世紀英文学会
キーワード：	イギリス文学，ジョン・ミルトン，十七世紀の英国，比較文学
技術相談 提供可能技術：	専門用語（自然科学分野）の翻訳

研究内容：ジョンミルトンを中心とする英文学研究





・英国の詩人ジョン・ミルトンを中心とする英詩研究

ミルトンは英文学史において重要な詩人と位置付けられており、後のロマン派詩人へ影響力をもつ。彼の代表作 *Paradise Lost* では、神－悪魔、善－悪の対立図式を超えたヒューマニズムが、アダムとイヴの堕落と悔恨、そして救済へと続くプロセスの中で描き出されている。またミルトンは政治や宗教、教育などの分野で多くのパンフレットも出版しており、当時の英国が抱える諸問題を読み解くうえで、それらの散文作品は示唆に富んでいる。

・サミュエル・ハートリブを中心とする教育パンフレットの研究

十七世紀の英国は政治的、宗教的対立の時代であると同時に、科学思想や教育制度が発達した時代でもあった。サミュエル・ハートリブは、自身が主催するハートリブ・サークル（別名：見えない大学）をとおして幅広い分野において政策案を出版するなど、数多くの著作物の出版に関わった人物である。ハートリブ・サークルをとおして出版された教育パンフレットは、当時の人文主義にたいするアプローチを読み取るうえで意味を持つものであり、ハートリブとその周辺の人物の相関関係を読み解くのに有益である。以上のことを踏まえ、ミルトンの『教育論』とペティの『提言』を中心に、関連する一次資料の検証を進めていく。

・日英比較文学の研究

十七世紀以降の英文学作品の影響が、明治の開国以来、日本文学にどのような形で影響を与えているかを考察している。例えば夏目漱石は、十八世紀英文学の研究を通して、文化形成が内包的であるか否かに焦点を当て文学を論じている。西洋と日本の近代化（＝開化）の違いを、内発的（積極的）・外発的（消極的）活動の観点から論じ、人間の在り方について模索した。作品の類似性、作家の受容の問題とともに、英文学と日本文学における、ナショナル・アイデンティティーの問題についても考察を進めている。

提供可能な設備・機器：

名称・型番（メーカー）	